



立神峡だより



新たな年を迎えて



新年あけましておめでとうございます。一年の計は元旦にあり。立神峡も今年はスタッフ一同気を引き締めて、心新たに一步を踏み出そうと決意しております。特に、昨年は6年間無事故を達成していたにも関わらず、残念な結果に終わった事を踏まえ、スタッフの中に救急救命士の資格を持った人を採用して、万全の態勢で臨み、立神峡をさらなるステージに進めて参る決意です。町民皆さまのご支援ご協力をお願い致します。



野鳥の宝庫としての立神峡を広報する



立神峡は皆さまご承知のように清流氷川のほとりに位置し、冬にはたくさんの渡り鳥(マガモ・コガモなど)やヤマセミ・カワセミ、オシドリも見受けられ、野鳥の宝庫として近年では多くのカメラマンが立神峡周辺の川辺を散策しながらシャッターチャンスを見逃すまいと来園されます。

冬にはどうしても家に閉じこもりがちですが、氷川の清流を見ながら自然豊かな立神峡周辺を散策し、野鳥との出会いを深められてはいかがでしょうか。野鳥の宝庫としての立神峡を内外にアピールするべくこれからもPRして行きたいと思っております。



コスプレイヤーが集結



昨年より奇抜な衣装に身を包み、アニメの世界から抜け出した衣装で九州各地から続々と集結してきたコスプレイヤー。その数50人。専属のカメラマンを従え、立神峡を舞台に自分の気に入った衣装に身を包みログハウスやその周辺を散策しながら写真撮影。その広がりや年々拡大を続けています。彼女たちがここ立神峡を舞台に撮った写真をSNSなどで拡散し、宣伝してくれたお陰で立神峡を訪れる人が増えています。

今後とも、若い力を大いに活用していきたいものです。



腐葉土作りに落ち葉の活用を



立神峡ではクヌギの木がたくさん植えてあり、夏にはキャンプサイトや火の広場は木陰で涼しくカブトムシなどが蜜を求めてやってきます。子どもたちにとっても昆虫採集の場として最適な場所です。しかし、冬になると、落ち葉となりその始末は重労働で公園管理に多大な労力を費やします。皆さんの中で、腐葉土を作りたい人がおられましたら、大歓迎です。最高の品質の腐葉土が出来ます。好きな時間にお好きなだけお持ち帰りください。ご来場をお待ち申し上げます。

【お問い合わせ】 立神峡公園管理棟

☎ 0965-62-1543 FAX0965-62-1546 (8:30~17:30 火曜定休日)

ホームページ

<http://tategami-camp.com>

町民文芸

短歌

山里の彼方此方に陽を浴びた

飴色の柿の玉簾見ゆ

北野津 宮本 末秋

水島の天飛ぶ影よ万葉の

帝を恋ふる白鳥なるか

北野津 井田 道寛

もここの寝巻き新調うれしくて

もここの眠るもここの夢

西野津 古崎スエノ

雨音の耳鳴り聞こえぬ冬の雨

鮮む山茶花の花惜しむ

西野津 古崎 栄子

回り来た子年の我は感謝なり

夫と孫子に手を合わせ

南鹿野 尾崎 京子

投稿の中より一編選ばれる

一編夢見原稿送る

西上宮 村内 一誠

登校の娘見送る此の笑顔

今も生きてる我が胸中に

吉本 高橋 澄子

除夜の鐘時の流れの早きこと

思い返して昭和・平成。

上鹿島 前村 俊子

年の暮イルミネーションに変わる町

楽しみ多くも忙しき師走

東上宮 H, O

俳句

千柿のひとつを妻と分けて食う

北野津 宮本 末秋

初空や島地八幡大菩薩

北野津 井田 道寛

大輪の菊の出迎え研修館

西野津 古崎スエノ

初春をお屠蘇で染める幸わせを

南鹿野 尾崎 京子

深深と頭をさげて年明くる

町 香山菊童子

年歩む令和元年過ぎしけり

西野津 古崎 栄子

亡夫送る秋夜静かに暮れなずむ

吉本 高橋 澄子

あら尊ふと銀杏のジュウタン神の庭

西上宮 村内 一誠

日々一歩長く短かし生る道

上鹿島 前村 俊子

漱石と家族と「漱石山房の人々」

法道寺 本田 花風

午後六時四十五分、真壁が漱石の脈をとり、その握っていた手を漱石の胸の上に返し、「ご臨終でございませ」と頭を下げた。真壁は鏡子に「お目を」と言い、鏡子は漱石の目に軽く触れた。明治の文豪、夏目漱石の最後の姿であった。

手紙ではないけど、Postscript

(ポストスクリプト)

「綿矢りさ」はタイムスリップして漱石の臨終に立ち会った。衆人環視のなか、りさは「先生」と思わず大声で叫んで、大粒の涙を流し続け、大勢の漱石を看取った人々を驚かせた。

文芸らしきと言っても切り抜き、継ぎ接ぎだらけの文芸作品、しかし、普通人であれば知る由もない漱石の心情は少なからず、そうであったかと実感されたであろう。

今編は、こちらへんでよかるかい。更にSP・學燈社、休刊、倒産の記事がネットで流れる。「漱石の作家的出発をめぐって」の位相がよく解らないので、出版社に聞かねばと思い、ネットで連絡先を検索したところ、倒産の文字が躍る。

Oh My Ged 一九四八年創業以来、日本の国文学を席巻してきた文学書の巨星が、ついに力尽きた。社会現象の変化は文学への熱意とネット依存が「研究」と「紙」を抹殺したのだ。百数十冊が記念書として手元に残るのがせめてもの供養である。社会が大きく変わって文学の必要性が廃れるかもしれない。

Dernir Memoir 次作の目途つき、撤回します。

歌の街へようこそ！ ～東北・ふるさと熊本に心をよせて～

- 日時 令和2年1月9日(木) 13時開場 13時30分開演
- 場所 やつしろハーモニーホール 多目的ホール
- 参加費 1,000円
- 歌の案内人 村井 智子

問 歌の街実行委員会 ☎090-9597-2350

投稿について

- ・ 楷書で記入し、漢字には全て読みがなをふって投稿してください。
- ・ 内容確認する場合がありますので電話番号を明記してください。
- ・ 毎月8日必着

※掲載は1人あたり短歌・俳句・詩のそれぞれ一句ずつとなります。

※遅れて投稿された場合掲載できない場合があります。あらかじめご了承ください。

投稿先

〒869-4814 氷川町島地642番地
企画財政課 企画係
☎0965-52-5850